

(第5号様式)

学位論文審査の結果の要旨

氏名	Md. Rashidul Hasan
審査委員	主査 胡 柏
	副査 松岡 淳
	副査 市川 昌広
	副査 椿 真一
	副査 武藤 幸雄

論文名 Production Efficiency and Marketing System of Vegetables in Bangladesh
(バングラデシュにおける野菜の生産効率とマーケティングシステム)

審査結果の要旨

バングラデシュでは、野菜生産は農民たちの重要な収入源であり、栄養バランスの取れた食料需給や農村貧困の改善において重要な役割を果たしている。しかし生産規模は零細で経営環境未整備のため生産性が低く、野菜の安定供給に向けた生産、流通構造の解明が課題となっている。本論文は、野菜の収益性、生産農家が直面する制約要因、および野菜農家の収入・費用構造に大きな影響を与える流通システムの構造や流通業者の役割等の解明を行ったものである。

論文の主体は、序章（第1章）と終章（第8章）を除く6つの章から構成されている。第2章は102軒農家の調査によるカリフラワーと豆類の収益性分析、第3章は3つの地域、90軒農家の調査によるなすの収益性分析、第4章は3つの地域、75軒農家の調査によるトマトの収益性分析、第5章は3つの地域、87軒農家の調査によるひょうたんの収益性分析に充てた。第6章は、213軒農家のデータを用いて第5章までに取り上げた5つの野菜作の生産効率の総合比較とコブ・ダグラスフロンティア生産関数を駆使した技術効率分析、第7章は、354軒農家と129件流通業者の調査結果を基にした野菜の流通構造、流通段階別収益構造（流通マージン）分析を行った。

上記の調査研究から得られた主な結果は、4つに要約される。

1. いずれの収益性分析においても野菜生産の収入/費用比が1より大きく、つまり経済的に有利で農家の収入向上に貢献していること、トマト作が最も高い収益性を有することが示された。
2. 生産物価格の低さと不安定、資金不足、資材価格高騰、貯蔵施設未整備、病虫害などは、野菜農家が直面する共通の課題であり、これらの点に照準した対策づくりは野菜生産の効率改善に寄与できることが示された。
3. コブ・ダグラスフロンティア生産関数による計測結果として、野菜生産の総合技術効率は87.3%であり、効率改善の可能性があることが明らかになった。
4. 多くの中間業者は農家の庭先や集落ファーマーズマーケットから野菜を仕入れ、都会のマーケットで販売する行動を取り、4~15%の流通マージンを形成している。輸送手段は貧弱で、現金支払いが

主流となっている。野菜の流通システムが未発達状態にあり、流通システムの整備に向けた努力は野菜作の生産性と効率改善に大きく寄与するものとなるなどの点が明らかになった。

以上のように、本論文は多数の農家、流通業者への実態調査に基づき小規模野菜農家の経営実態、収益性、および流通構造や野菜農家が直面する課題を明らかにした。分析手法がやや単調で、研究課題の学術背景に対するサーベイ不足、調査・分析結果への考察不足、事例研究における産業俯瞰的視点の不足などの課題も残るが、努力相応の結果が得られたと評価できる。

本論文に関する公開審査会は令和3年7月29日に愛媛大学大学院連合農学研究科でテレビおよびオンライン方式より開催され、申請者の論文発表と適切な質疑応答が行われた。引き続いて行われた学位論文審査会で本論文の内容を慎重に審議した結果、全員一致して博士（農学）の学位を授与するに値するものと判定した。